

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月9日

【評価実施概要】

事業所番号	3272200472		
法人名	社会福祉法人 あま福祉会		
事業所名	グループホーム諏訪苑		
所在地	島根県隠岐郡海士町海士3964番地 (電話) 08541-2-1273		
評価機関名	NPO しまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成19年10月19日	評価確定日	平成19年12月3日

【情報提供票より】 (2007年9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算6.9 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	階建ての	～ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,380 円	

(4) 利用者の概要 (9)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	8人	要介護2	1人
要介護3		要介護4	
要介護5		要支援2	
年齢	平均 82.5 歳	最低 72 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	海士診療所
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

日々の気付きをもとにサービスを積み重ね、入居時より介護度が改善し、生活が豊かになった方がほとんどである。入居者一人ひとりの動機付けを大事にし、役割分担で自覚を引き出すなど工夫し、入居者と職員が信頼関係を持つことでくらしが変わってきた。小高い丘の上、野山に海に慣れ親しんだ自然の環境がある。住居は明るく広く木のぬくもりや手作り暖簾・笑顔の写真があり、穏やかな空間である。開設して3年余り、やっと落ち着いたところということだが今後に期待の持てるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	評価をサービスの質の向上に活かす姿勢があり、金銭管理の報告を定期化し、個別ファイルには独自の基準で作成された日常生活動作評価表も記録され、改善に向けて取り組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価によって、出来ていること、出来ていないことを整理し今後取り組む内容を明確にしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年より開催し、ホームの事業計画や事業報告・外部評価などの報告をし、委員からの助言も得ている。だが開催回数も少なく、委員数も少ない。もっと実践していることや理念を浸透させるためにも定期開催を目指して努力していただきたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ファミリー通信や生活記録シート、面談など家族への情報提供や対話に力を入れてきた。今までは無かったが、意見用紙に記入して頂いたり、終末期対応についての意向を話し合うことが出来たり、家族参加の運営努力が実ってきている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事・運動会・産業祭・お祭りなどに参加している。近隣の幼稚園や社協の居住部門との交流がある。広報誌を発行し気軽に立ち寄ってもらえるホームにしたいとの計画実現を期待する。

2. 評価結果

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来掲げた理念を支援の原点として、サービスの質の向上に取り組んでいる。実践の中で「地域と共に」「地域の一員として」という地域密着の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の支援を常に理念に立ち返る策として、事業計画の中で理念に基づいた目標を具体化し取り組んでいる。また申し送りやミーティングで、管理者や職員同志の助言もある。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事暦が貼ってあり、積極的に参加している。近隣の幼稚園ができた時は、ホームの丘に咲くつつじを植えてあげるなど交流に取り組んでいる。	○	計画されている広報誌の発行が、実践の中で築いたサービスのあり方を地域に普及し、地域を支える介護のネットワークを広める取り組みになることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で話し合い、できていること、出来ていないことが整理できた。今後取り組む内容も確認している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員を行政・家族・地域・老人会の方々4名にお願いし、事業計画や事業報告・評価の結果など説明している。職員も全員参加している。がまだ開催回数も少なく、委員数も増やす予定である。	○	構成員、議題、会議運営の方法など工夫して、2ヶ月に1回開催できるよう検討してほしい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	常に役場に出向き、担当者と話し合っている。新しい介護事業の導入計画も相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ファミリー通信を発行し、生活の様子や写真、介護計画や評価など、分かり易く温かい記述で報告されている。金銭管理は2ヶ月に1回郵送し、職員の異動時にもお知らせするように改善している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会記録などで家族などの意見を汲み取る努力をしている。各居室に置いている用紙にも最近意見を記入して頂いた。検討し対応する予定である。	○	さらに、家族会のあり方や、職員の接遇も含め検討してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事交流として年1回職員異動をしていたが、今後は固定と考えている。週1回は合同で食事をしているので馴染みである。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の学習計画があり、パソコン・口腔ケア・料理教室など、実践に即したユニークな内容である。理念を目標におき、実現に向け具体的な行動計画となった工夫された計画である。外部の研修も伝達されている。	○	さらに自己目標管理シートによる育成を予定されている。職員の歩みに合わせた育成に配慮され、サービスの質の向上を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流機会は少ない。内外ともに働く方同志の交流が望まれている。	○	働く人同志の交流、相互訪問を企画し実現させてほしい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心し納得した生活ができるよう、事前に家族や本人に見学してもらっている。	○	家族に宿泊してもらいなどの協力や体験入居の導入などで、よりスムーズなサービス開始となるよう期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事当番の時、職員が作り方を教わったり、味付けを指導してもらったり、包丁さばきや知恵を教わる。特に地域のならわし・伝統などに関しては、教わることが多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の家に帰りたいという思いを知り、空き家を訪ねた、それだけで安心して帰ってこられた。しゃしぶという木をいつも壁掛けの手作り花瓶に飾られる方もある、など思いや意向の把握に努め、実践されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意見要望を聞いたり、ホーム以外の法人関係者等多くの職員の意見を聞くなどして、月1回のケース会で介護計画を立てている。介護計画は家族に配布されている。	○	ホーム以外の関係者の意見を聞く機会が積極的にもたれており、この継続と共に家族や利用者本人が参加するカンファレンスの開催を、また計画されているフェイスシートも期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月二回開催されるケース検討会で介護計画の実施状況や効果などについて評価されたり、変更点を確認される等、一～二ヶ月に一回見直しが行われている。	○	月一回の見直しの定着と共に、利用者や家族の意見や要望が反映された介護計画の見直しとなるよう期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	急に具合が悪くなった時の送迎は柔軟に対応している。また男性がただ1人なので、気分転換のため、港で荷揚げの時や資料配りに出る時お誘いし、車で出るように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員協力医療機関が主治医であり、かかりつけ医である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについては、本人や家族の希望に沿った支援をする方向で考えている。今は家族の意向を把握している方は少ないが、今後家族の意向を聞いていこうと考えている。職員も看取りについては重要性を理解している。	○	家族の意向も把握し、どこまで出来るのか職員や医師との話し合いにより看取りの指針を定められるよう望む。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	衣服の乱れなどについて、利用者のプライドを損ねないような言葉かけやそっと気づいてもらえるような対応に心掛けている。個人情報については職員に周知している。	○	広報や便りに掲載される個人情報については、個々の利用者の判断が尊重される旨の記述とされることが望ましい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居当時は、部屋にこもって何もされなかった方に、ゆっくりとコミュニケーションをとり信頼関係を作っていく、本来の生活が送れるようになった。食事当番でも、無理強いはしないで、出来ることでいいからという姿勢で支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食とも職員と利用者で当番を決め、調理・配膳・など全て行っている。献立は隣接の施設と同じであるが、週1回は自分たちでメニューを考え作っている。テーブルを拭く人・下膳する人など、自然な姿がみられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、希望の時間に毎日入れるようになってきている。夜間は19時から21時まで可能である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事や裁縫・料理・洗濯たたみなど、楽しんで力を発揮してもらうよう支援している。また地域の年間行事には出かけるようにしている。、特に昔からのお祭りや行事は記憶もあり喜ばれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩されている方もあるし、ドライブに出かける事も多い、時には全員で外食に行くこともある。しかし丘の上のホームであり、近所に行くような外出は少ない方もある。	○	外出の少ない方への、動機づけを期待したい
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は掛けていない、入居者の外出を察知したら見守りする。近所のかたの見守りもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接施設との合同非難訓練は年2回実施している。地域のかたも参加され、地域の非難場所にもなっている。また、毎月通報装置の使用訓練を行い慣れるようにしている。備品は合同で備えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量については毎日日誌に記録され把握されている。法人内の栄養士による献立により、栄養バランスも配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井高のリビングは、広く明るく、木目のある板張りが落ち着ける。和の手作り暖簾があり、ソファ・炬燵も置かれ、入居者は自由な語りや行動をしてすごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具・畳・炬燵など、自宅の一室を持ってきた雰囲気のある居室となっており、電気のひもを使い勝手がよいように工夫し、くつろいだ生活を送られている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。